

教育センター ニュース



教育支援課
マスコットキャラクター
しえん君



四日市市教育委員会 教育支援課 〒510-0085 四日市市諏訪町2-2(四日市市総合会館6階)
TEL (354)-8283 (代) FAX (359)-0280

ホームページ <http://www.yokkaichi.ed.jp/e-center/>

■特集 教育支援課 平成23年度重点事業

「変革への柔軟性」

教育支援課

浅川 由子

「教育への情熱を持ち、豊かな人間性を備え、自己相互研鑽を積み、確かな教師力を持った教職員」…これは、第二次学校教育ビジョンに掲げた「めざす教職員の姿」です。そして、教育指導方針には、「教師としての使命感」「幅広い教養」「深い子ども理解」等、具体的な教師力が挙げられています。

「これらの一つに「変革への柔軟性」があります。教師は意外と変革には保守的などころがあります。新しいことを始めようとすると、「そんな必要性があるのか」「今までと同じではだめなのか」といった意見は必ず出てきます。近年定着したと思われる学校評価でさえ、「教育には数値はなじまない」「評価の必要性があるのか」といった意見もまだあるようです。

「不易と流行」といいますが、教育には、二十年前、三十年前、或いは学制が敷かれた明治時代から変わらぬものがあります。それは、子どもへの愛情であったり、魅力的な人柄や指導の専門性であったり、多くは教師としてのゆるぎない姿です。そしてそれらは、明治の時代も平成の現代も変わらないものであり、これからも大切にいくべきものです。

「不易と流行」といいますが、教育には、二十年前、三十年前、或いは学制が敷かれた明治時代から変わらぬものがあります。それは、子どもへの愛情であったり、魅力的な人柄や指導の専門性であったり、多くは教師としてのゆるぎない姿です。そしてそれらは、明治の時代も平成の現代も変わらないものであり、これからも大切にいくべきものです。

上サポートブック」の活用による研修、「若手教員研修」や「ミドルリーダー教員研修」等、さまざまな研修の方法があります。それらの研修に對して、漫然と「やらなければならぬから」受けているのか、「自分を変えよう」とより良い実践を求めて能動的に参加しているかによって、大きくその結果は変わってくるでしょう。

長い間教師をしていると日常の業務に追われ、以前に持っていた夢や希望を見失ってしまうこともあります。同じことを繰り返していくのではなく、小さなことでもいいから変えていこうとする「変革への柔軟性」を持ち、常に学び続ける教師でありたいと思うこの頃です。



教師力向上!

*「教師力」とは、幼小中全教職員それぞれにつけたい専門的な力のことを言います。



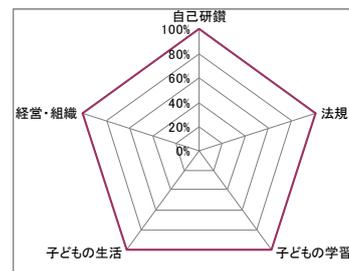
1 「四日市市学校・園教職員 自己相互研鑽のために」の活用

「四日市市学校・園教職員 自己相互研鑽のために」は、従来の「教師力 自己相互研鑽のために」を精選・重点化し、幼小中すべての職種の職員が活用できる研鑽資料としての充実を図ったものです。自己分析や振り返りを充実させ研修に生かすため、積極的に活用しましょう。

★ その① 自己分析を深めよう

経験年数に合わせて自己評価・自己分析します。自己相互研鑽チェックシートによるレーダーチャートも参考にします。

自己分析後、学年や数人のグループでシェアリングします。他者から評価されることで自分の強みに気づいたり、研修の意識を高めたりします。



★ その② 相互理解を深めよう

他の職種のページもめくってみます。自分の職種だけでなく、他の職種の「身につけるべき資質・能力」や「職務内容」を知ることができます。互いの理解を深め、学校・園全体の教育力を高めます。

まずは、自己分析を！
自分自身をみつめることが第一歩です。



教育センターHPデータベースの中にすべてのデータが入っていますので、チェック項目を加味・削除して活用して下さい。データは[こちら](#)

2 ICTで授業改善



教師力を伸ばしていくために、大事にしたいのが授業です。授業改善のためのツールとしてICTは大変有効です。

今年度は、ICTコーディネーターを中心に各校でICTを活用した授業研究に取り組みます。授業改善を進めることで、子どもが変わり、学校が変わっていくはずです。

1 地域特別支援教育コーディネーターが8名に！

今年度は2名増え、小学校5名、中学校3名の地域特別支援教育コーディネーターが活動（原則週1回木曜日）しています。訪問要請に際しては、校内委員会等で事前によく協議し、対象とする子どもを絞り込むなどの工夫をお願いします。

小学校	中学校
Aブロック 杉本 恵里子 先生（羽津小）	北部ブロック 平野 雅也 先生（桜中）
Bブロック 鶴崎 真 先生（桜小）	南西部ブロック 佐藤 英子 先生（南中）
Cブロック 今村 真也 先生（楠小）	中部ブロック 小林 正美 先生（西笹川中）
Dブロック 近田 充 先生（泊山小）	
Eブロック 伊藤 二三四 先生（常磐小）	



ブロックは、「H23 地域特別支援教育コーディネーター配置要項」（四日市市掲示板＞学校・園事務）にてご確認ください。

2 使っていますか？相談支援ファイル

市内の幼稚園、保育園、小学校、中学校では784冊の相談支援ファイルが活用され、その後も新規の作成が進んでいます。

（H22・12・1 四日市市特別支援教育推進協議会調べ）

各園・学校では作成した相談支援ファイルの効果的な活用をお願いします。

一人あたり年間5回の活用が目標です



活用しよう

【引き継ぎでは】

園・学校間での引き継ぎの際に相談支援ファイルを活用することで、入学後の受け入れや、保護者との関係づくりがスムーズになります。

【懇談のときにも】

教育支援計画を提示しながら話し合うことで、ポイントを絞った懇談ができます。また、その場で話し合いながら保護者にレポートファイルに書き込んでもらうことで、子どもへの共通理解が深まります。

3

注意信号をキャッチしましょう

YESnet 子どものこころの病を早期に発見、支援するために、教育委員会、保健所、医療機関（ささがわ通り心・身クリニック）が連携して取り組んでいます。

YESnet の合同会議・保健所との庁内会議で事例検討を行い、治療につなげる必要性や支援等についても専門家がアドバイスを行います。

本年度は、YESnet のスタッフが学校へ出向いて、出前事例検討会を開きます。ぜひ、ご利用ください。

子どもにこんな様子が見られたら



教育支援課へ **354-8285**

おすすめの本

統合失調症
正しい理解と治療法
監修 伊藤順一郎
講談社

患者と家族が、統合失調症を正しく理解し、病気と適切に付き合っていくために知っておいてほしいことがまとめられています。

各校の保健室に 絵本「こころの病気がわかる絵本①～⑤」を配付しました。

子どもたちがこころの病気について知るきっかけになるよう、気軽に閲覧できるようにしてほしいと思います。

①あさ おきられない
ニワトリ

②てあらいがとまらない
アライグマ



③さかながこわい
クジラ



④そらみみが
きこえたひ

⑤ふとるのがこわい
チーター



4

通級指導教室を紹介します！



言語通級指導教室（ことばの教室） 桜小学校 中部西小学校

個別指導で他の人とコミュニケーションできることばの力をそだてます



情緒等通級指導教室（ほっとルーム） 桜小学校 内部東小学校（新設⇒6月開級）

個別や小集団で人とのかかわり方をまなびます

保護者から通級希望がありましたら、地域特別支援教育コーディネーターやスクールカウンセラーに児童の観察を依頼してください。